

令和6年度第1回島根県幼児教育推進協議会 議事概要

日時：令和6年5月30日（木）13:30～15:30

会場：サンラポーむらくも 興雲の間

出席者

- 委員：小山 優子 座長（公立大学法人島根県立大学人間文化学部 教授）
峯谷 玲子 委員（島根県国公立幼稚園・こども園長会 会長）
西谷 正文 委員（島根県私立幼稚園連合会 理事長）
川上 雅文 委員（荒茅保育園 園長）
相山 慈 委員（認定こども園あさりこども園 園長）
今岡 篤子 委員（島根県幼児教育研究会 会長）
安達 利幸 委員（島根県小学校長会 会長）
長岡 和志 委員（松江市保育所（園）保護者会連合会 会長）
八束 政義 委員（島根県教育庁特別支援教育課 課長）
- 事務局：石橋 裕子（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 室長）
野島 博行（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 企画幹）
岩成 佳子（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 指導主事）
永島 千津子（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 幼児教育コーディネーター）
小笹 栞太（島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 主事）
梶谷 美鈴（島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 課長補佐）
渡邊 紀子（島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主任）
山田 大翔（島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主事）

1 開会

- ・挨拶（島根県教育委員会教育長）
- ・自己紹介（委員 事務局）
- ・島根県幼児教育推進協議会の設置について 資料1
- ・会議の公開の取扱いについて 資料2

2 議題

- (1) 島根県内の幼児教育の質の向上及び幼小連携・接続の状況について 資料3
- (2) 幼児教育振興プログラム改定の骨子案について 資料4（4－（1）、4－（2））
- (3) 今後のスケジュール等について 資料5

3 議題(1) 島根県内の幼児教育の質の向上及び幼小連携・接続の状況について(資料3)
(R5年度実態把握調査結果より) 事務局から説明 委員の意見・質問

(事務局 資料3をもとに説明)

- ・(教育課程及び全体的な計画の編成状況について)

各幼児教育施設の教育要領や指針では、教育課程又は全体的な計画を作成することとされている。これらの計画について、実施状況を評価し、改善を行うことをカリキュラムマネジメントというが、公立保育所は23%、私立保育所は32%の割合で、評価改善を行っていない施設があり、今後、助言等の対策を打つ必要がある。また、私立保育所の中にも、一部、全体的な計画がない施設があり、指導を急がなければならない。

- ・(保育者の資質・能力に関する自己評価の結果について)

教材の研究力においては、保育所のうち約33%、認定こども園のうち約40%の保育者がネガティブな回答をした。指導・保育案の作成力については、保育所の約30%、認定こども園の約35%が否定的な評価となっている。カリキュラムマネジメント力については、否定的な割合が上がり、幼稚園も含め多くの保育者が課題を持っている。これは保育の質の向上の重要な手立てなので、早急な指導が必要だと認識している。要領・指針等の理解については、特に保育所、認定こども園では60%以上の保育者が、基準によらない保育を実施している可能性があるかと危惧している。幼児教育の質の向上については、これまでも増して一層の支援が必要であると認識している。

- ・(幼小・接続の状況について)

幼児教育施設長及び小学校長からの回答によると、幼児教育施設の69%、小学校の68.2%が年数回の交流を行う程度か、またはそれ以下の状況であり、連携・接続の基盤のない施設が多数であることが読み取れる。また、接続期におけるカリキュラムの作成未着手においては、幼児教育施設が69%、小学校では80.3%となった。

(委員 意見・質問)

- ・幼小連携をやらないといけない施設はどれくらいか。また、設問の回答率はどれくらいか。保育所の場合は経験年数が浅かったりするので、ちゃんと回答しているか、上の人だけ答えていたり、ばらつきがあるかを確認していただきたい。
- ・幼小連携は市町村によってばらつきがあるか。出雲については示された数字ではなくもっと連携が進んでいると認識している。カリキュラム作成はどこの園も実施しているが、なぜこんなに数値が低いのか。

(事務局 回答)

- ・回答は任意であり、回答率は正確な数字が出せないが、全体の半分以上はある。ばらつきについては、調べて回答したい。
- ・市町村によってばらつきがある。調査の数字が低い理由は幼児教育施設と小学校が協働でカリキュラムを作成しているかという設問のためであり、これまで、学校又は幼児教育施設が独自にカリキュラムを作成していてもこのような状況になった。

(委員 意見・質問)

- ・(幼小連携接続について)進まない理由の分析はあるか。
- ・() 1対1又は2だったらできるが、1対10だと進まない等の状況は把握できるか。

(事務局 回答)

- ・小学校区を中心に小学校のスタートカリキュラム、幼児教育施設のアプローチカリキュラムについて検討しあうことが進んでいないためである。県としても、幼小接続の研修で協働のカリキュラム作成に狙ったものをしていかなければならないと認識している。
- ・小学校の先生に、いくつの幼児教育施設から入学しているかについては聞いているが、細かく分析はしていない。小学校の規模に関わらず、たくさんの幼児教育施設から入学している中、各市町村の状況に合わせた取り組みを一緒に考えていかなければならないと認識している。

(委員 意見・質問)

- ・幼児教育施設または小学校が協働してカリキュラムを作成しているかという質問について、地域のしほりを設けているか。

(事務局 回答)

- ・地域のしほりは設けていない。

(委員 意見・質問)

- ・協働で架け橋カリキュラムを作成していない状況は、小学校側の教員の意識が、小学校に入学してきた子どもが入学後に適応できるかに重きを置いているからではないかと思った。幼児教育施設で育んだ子供たちの興味、関心、意欲、やる気を伸ばしていくような授業あるいは活動ができていのかどうかについて、これから小学校の教員が学んでいかなければならないと思った。

(委員 意見・質問)

- ・一人一人会って、小学校と個別に連携が出来たらいいが、難しい。小学校区の中で集まるのが限界だと思う。

(委員 意見・質問)

- ・昔は1校1園の時代があり、幼小連携がやりやすい部分があったが、今はいくつもの施設から小学校に就学する状態なので、集団を維持することが難しく、小学校に連携してくださいとお願いするのは申し訳ない気持ちがある。
- ・(先の話を書いて)子どもたちがゼロではなく育っていることを幼稚園側がもう少し分かりやすく伝える機会、学びあう機会があるといいと思った。逆に、幼稚園側の先生も少し先の子どもたちの育ちについて知っておく必要があると思った。

(委員 意見・質問)

- ・カリキュラム作成については、作らなければいけないと認識しているが、まだできていない。小学校の校長先生とこれからカリキュラムを作成するところ。

(委員 意見・質問)

- ・江津市は他の市に比べ幼児教育施設と小学校が少ないので、以前から市が主催で、園長と校長先生が集まって、お互いの現場を見たり、研修会を開催したりすることを続けているが、近年は形だけになっていると感じている。校長先生が代わることで、これまで作り上げてきたものがリセットされてしまう。話し合いの機会は定期的に設けているが、その交流が充実し、接続を見通した課程や計画の編成・実施をする状況にいくまでのハードルの高さを毎回思い知らされている。

(委員 意見・質問)

- ・出雲では、研修や交流などを市が主体的に率先して、様々な取組を掲げながら幼小連携を進めているところ。それによって、幼児教育施設にはアプローチカリキュラム、小学校にはスタートカリキュラムが定着しているが、それを繋ぎあうのが今後の課題となっている。幼児教育施設の育ちを小学校に繋げ、小学校はそれをしっかりと受け止める、その繋がりをしっかりしないと、最近増えている不登校の原因の一端になるのではないかと危惧している。集団や学年の育ちが次へ次へと受け継いでいかれ、切れるものではなく、繋がっていく育ちを保障していける取組が今後なされることを期待している。

(委員 意見・質問)

- ・現場の状況がわからず、連携といってもどんな感じでやり取りをしているのか、子どもごとに履歴書のようなものがあるのか、小学校も、教員の異動に伴い引継ぎをされているのか、色々な疑問が浮かんだ。

3 議題(2) 幼児教育振興プログラム改訂の骨子案等について 資料4 4-(1) 4-(2) 事務局から説明 委員の意見・質問

(事務局 資料4-(1) 4-(2)をもとに説明)

- ・(幼児教育振興プログラム策定後の県内の状況について)
市町村幼児教育アドバイザーを配置する市町村が年々増えているが、いまだ人材確保予算確保の困難さから、配置をしていない市町村があり、幼児教育推進体制整備が進んでいない。また、今年度、施設種関係なく全幼児教育施設の保育の状況を把握してほしいと市町村にお願いしているが、この訪問指導を全施設実施していない市町村が多い。幼児教育、小学校教育の架け橋期の教育の充実のための具体的な取組においても、まだ不十分な状況である。
- ・(県内の状況を受けた、プログラム改訂の考え方について)
 - ① 各市町村が地域内の幼児教育の状況を把握し、適切に指導・助言できる体制整備が必要であることから、各市町村幼児教育担当者が幼児教育施設や小学校等への働きかけにも活用できるものに改訂する。
 - ② 保育の状況の把握のもと、保育の質の向上につなげる指導・助言ができる体制整備につなげるため、「小学校以降で育成する資質・能力の土台となる幼児教育」とい

う共通認識のもと、「環境を通して行う教育としての保育実践の手引き」となる内容へと見直す。

- ③ 架け橋期の教育の充実のため、双方が共通の視点を持ち、協働的に計画する必要があることから、「島根県でめざす架け橋期の教育」を明示する。
- ④ 架け橋期の教育の充実に不可欠な、幼保小の協働的な取組の推進をつなげるため、具体的な取組の方向性を示す。

・(改訂の概要について(現行と改訂版で比較して説明))

改訂版 I 改訂の趣旨

「1. 国の取組」、「2. 県の取組」のうち、「2. 県の取組」においては、「(1) 幼児教育の重要性を土台にした取組」「(2) 幼小連携・接続・推進のための取組」の2つを県の取組として進めることを、プログラムの最初で明示する。「(1) 幼児教育の重要性を土台にした取組」においては、遊びを通じた総合的指導の実践、幼小連携接続の視点を入れた幼児教育の重要性の部分を盛り込む。

改訂版 II 本プログラムにおいて大切にしたいこと

大切にしたい4つの柱について説明を載せる。

- 「(1) 幼児教育の重要性を子どもに関わるすべての教育関係者に周知すること」
- 「(2) 架け橋期の教育の充実に向けた方向性を明示すること(架け橋カリキュラムの手引きとしての役割)」
- 「(3) 幼保小それぞれの教育現場の実践につながる内容にすること」
- 「(4) 幼児教育施設内・小学校区内等における研修に生かすことができること(手引きとしての役割)」

改訂版 III 取組の方向性

現行プログラムの目指す子ども像では「【いきいきと活動する】【周りの「ひと・もの・ことと関わる】【遊び育つ】」を挙げているが、改訂版では、最後の「【遊び育つ】」を「【遊びこむ】」としたい。「【遊びこむ】」とは、主体的・対話的で深い学びにつながる学びの姿として、子ども達が遊びに集中し没頭し、遊びの循環を通して試行錯誤を繰り返す、さらに深い学びへと進化することを目指す意味合いがある。現行プログラムでは「幼児教育の目指す子ども像」とあるが、改訂版プログラムでは「幼保小そして次につながるようにめざす子ども像」という言葉で、幼保小全てで子ども達、特に幼児教育で培った遊びこむ子どものその主体的な姿を小学校につなげるというところを、めざす子ども像の中にメッセージとして伝えたい。

目指す子ども像の視点としては、以下、4点を掲げる。

- ①乳幼児期にふさわしい生活の場、保育者などの情緒的な関わり
- ②発達の段階を踏まえた教育・保育
- ③環境を通して行う教育
- ④一人一人の特性に応じた指導

このうち、③については、幼児教育の根幹に関わることから、共通の視点として、③を

重要にしたいと思っている。④についても、小学校で通常学級における特別支援の必要な子ども達は割合的に増えていることから、特別教育の視点も④で触れたい。

最後には、子どもを中心につなげるしまねの幼小連携の取組として、改めて幼小連携の手引きとなるように島根県がめざす架け橋プログラム、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりとした連携・接続を挙げたい。

改訂版 IV内容

「(1)保育の質の向上、【発達段階毎の項目】」「(2)円滑な接続を支える特別支援教育」について、委員の意見をいただきながら、取組編の内容として挙げたい。現行プログラムにある第4章島根らしさ、島根の特徴を生かした幼児教育や実践等はHPを活用して広く県民に周知することとし、改訂版では削除したい。

子どもに関わる全ての方が、幼児教育、幼小連携の手引きとして改訂プログラムを手にし、実践につなげていく方向でプログラムを策定、改訂していきたい。

(委員 意見・質問)

- ・「遊びこむ」という言葉、普段から使っており、改訂版で出されるのはいいと思う。もう一つ、情緒的な関わりのなかで、「アタッチメント」という言葉をよく使っているが、これについても触れてみてはどうか。

(委員 意見・質問)

- ・改訂版プログラムが、架け橋カリキュラムの手引きとしての役割、教育現場の実践につながる内容、あるいは小学校においても研修の大事な拠り所となるのは大変ありがたいと思った。その一方で、幼小連携が進んでいない状況を踏まえた、より具体的な取組をする際に、プログラムに助けてもらえる内容になるようお願いしたいし、期待をしている。

(委員 意見・質問)

- ・「環境を通して行う教育」とはどういうことか。

(委員 回答)

- ・乳幼児は遊びや生活の中から色々なことを吸収していく時期であり、保育者は保育環境の中に遊びたくなるような遊具や道具等の子どもが興味を引くような環境を提供し、子どもが自分から遊びたいと思い遊び始めるような、自発的に色々なことに取り組む力を伸ばしていく。子ども達が興味をひく環境を提供しながら、子どもたちがそれにどう取り組んで、どう発展させていくか、保育者が関わりながら援助指導していくようなことを「環境を通して行う教育」と呼んでいる。

しかし、「環境を通して行う教育」等の幼児教育の中での考え方が小学校以上に伝わっていないことが実際ある。

(委員 意見・質問)

- ・県が実施した実態調査の中の「各園校の幼小連携・接続のステップ(状況)」は重要だと

思っており、連携・接続のステップは地域差や学校差が出て、進んでいるところ、いないところ、まちまちとなっている中で、改訂版のプログラムはどのステップでも多少良くなっていく形になるようになるのが良いと思う。色々なレベルでやっている園校があるので、プログラムを活用し、幼小連携・接続の参考にしてもらうためには、形だけにしてしまうと形骸化して誰も読まないプログラムになってしまう。現場に対してどう生かすか工夫が必要だと感じた。

(事務局 回答)

- ・子どもが自分の考えを持って様々な遊びをさらに発展させる姿を小学校も理解した上で、今回の改訂版プログラムでは幼児教育で大切にしている部分を小学校の先生には知ってもらいたい、共通認識を持ってもらいたい思いがある。そのために、子どもの学びが子どもの姿を通して見えるよう、委員の実践例を参考にし、県として工夫したいと思う。

(委員 意見・質問)

- ・現行の幼児教育振興プログラムの存在を校長先生は知っているか。1年生の担任は必ず見ているなどはあるか。

(事務局 回答)

- ・小学校には配布しているが、必ず見ているとはいえず、見ていることを期待している。
- ・検討段階だが、現行の「幼児教育振興プログラム」という名称では、小学校が前のめりで冊子に目を通さないと思い、架け橋プログラムの幼保小でしっかりとめざす子ども像に向けて、小学校側にも手に取ってもらえるようなタイトルに変えてもらうことを考えている。

(委員 意見・質問)

- ・昨年参加した幼児教育推進研修は、幼児教育にとどまらない、あるいは小学校こそ知るべき学ぶべき内容だった。プログラムのタイトルも小学校側もさらに学ばせていただけ、熱い思いを持てるようなものにしていただけたらと思う。

(委員 意見・質問)

- ・プログラムのタイトルで「これは接続やその先にもつながるもの」ということをイメージできるといいと思った。

(各委員 意見・質問)

- ・現行の「幼児教育振興プログラム」という題目、表紙も含めて、もう少し小学校も入っていることが伝わる名称に変えることについて、異論はない。

(委員 意見・質問)

- ・表紙の絵も、児童と幼児が一緒に映りこんだ、みんなで幼少連携をやろうというものが出来上がり、県の研修などで必ずこれを持参して幼小連携はこれをもとにしますとさせていただくとよい。改訂プログラムが作って終わりではなく、生きた教材本、指針本となり、担任が代わっても、プログラムを中心に話題が膨らんだり、共通理解ができたりすることを期待している。

(委員 意見・質問)

- ・名前を変えることはいいことだと思う。小学校が関心を持ちにくいのであれば、変えた方が良い。

(委員 意見・質問)

- ・「幼児教育」という言葉自体が、「幼稚園教育」というニュアンスが強く、誤解を生みやすい。幼稚園、保育所、こども園3つが入っていて、そこに小学校につなげていくというニュアンスが入ってくるといいと思う。そのあたりを補強するような言葉の使い方、説明なども必要だと思う。

(委員 意見・質問)

- ・資料4-(2) 改訂版IV内容の1 取組編のうち、(1)保育の質の向上、【発達段階ごとの項目】に5つ項目があるが、これはこの順番か。(上から下へ)

(事務局 回答)

- ・順番がこれでいいかについてはご意見をいただきたいが、この項目を挙げたらどうかとは考えている。

(委員 意見・質問)

- ・幼小連携を重視したものとなると、流れ的には「子どもの理解に立った保育」は上の方にあるべきだと思う。まず、それがあって主体とか深い学び、その学びの土台が小学校接続につながるという流れの方がより効果的と感じた。

(事務局 回答)

- ・取組編については、違うアプローチの仕方もあるかと思う。項目書きしていないが、取組編の中に幼小というところも挙げられると思うが、その上で手引きとして幼小連携も挙げているので、もう少し細かいところが出来上がったところで意見をいただけるとありがたい。
- ・骨子案を作って了解を得られれば、次回には改訂版の中の柱をしっかりと立てた骨子案を見ていただきたいと思う。現行と改訂版を見比べて、削除しているが、この部分は是非残してほしい等の意見がもしあればいただきたい。

(委員 意見・質問)

- ・目指す子ども像実現のための視点についてが、幼児教育を充実させていくために必要なことだと思うが、それを受けて幼小連携を色濃くしようと思ったときに、小学校にはこういう接続があるみたいな具体があると、小学校の先生が見ても理解して振り返れると思う。

(委員 意見・質問)

- ・たしかに幼児教育の考え方が載っていないが、小学校でも大事にしている考え方とかを、幼児期に関わる保育者も知っていきながら先にどう繋いでいくかということも出てくるといい形になると思った。

(委員 意見・質問)

- ・資料4-2 改訂の基本的考え方のうち、現行プログラムの0歳からの発達の目安はわかりづらいため掲載しないとあるが、そこは乳幼児期からの流れで何がわかりづらいか。

(事務局 回答)

- ・0歳からの発達を目安と3つの資質・能力については、大事なところを抑えてあると思うが、小学校以降で育成する3つの資質・能力につなげると、小学校サイドで見るとわかりにくい。小学校にどうつながるかを、1つの図でまとめるのは難しく、子どもを中心につなげるしまねの幼小連携・接続のところの島根県がめざす架け橋プログラムの中に、小学校ではどう大事に繋いでいくかを表せていけばいいと思っていた。意見があればぜひお願いしたい。

(委員 意見・質問)

- ・現行プログラムの発達を目安はわかりやすかった。保育園、幼稚園の方はこれがマニュアルみたいなところもあった。これが小学校低中高学年とあるのがなお良いと思う。項目についてはこれから変わっていくが。

(事務局 回答)

- ・島根県がめざす人間像、子ども像があり、そこに幼小連携、幼児教育と小学校をどう繋いでいくかを図にできたらいいと思っている。発達を目安が必要だと言われれば、作らなければいけないと思う。ただ、他県を見ると細々としたものが1つの大きな図でまとまっているものがあり、そのようなものはかえってわかりづらくなるのではないかと思っている。

(委員 意見・質問)

- ・0歳からの発達を目安があることはいいと思う。環境を通して行う教育の話聞いて、子ども達が目を輝かせるような仕掛けをしていくことは、小学校でもやれば授業も充実する。だから、そういう具体が実感的に入ってくるような仕掛けがあるといいと思った。

(委員 意見・質問)

- ・0歳から6.7歳までの発達のなかの、小学校に送り出す前の5.6歳の一、二年の姿は0歳から育てている部分もあるので、0歳からの発達を目安を載せていいと思う。

(事務局 回答)

- ・改訂プログラムの中には入れず、HP等活用しながら示したいと思っているが、これがプログラムの中にあることが大事だという意見があればいただきたい。

(委員 意見・質問)

- ・プログラムの中にあっただろうが、研修した時に確認しあえる。育てている子どもの姿がここにつながっていると振り返ったり見通したり確認したりできるためには、プログラムの中にあっただ方がわかりやすい。詳しいものはHPでよく、指針となる大事なものは載せた方がよい。

(委員 意見・質問)

- ・冊子とHPの二本立てで良く、うまく両方を使い分けられれば良いと思う。

(委員 意見・質問)

- ・冊子の厚さはどのくらいか。

(事務局 回答)

- ・骨子前段階だが、現行プログラムの2/3くらい。

(委員 意見・質問)

- ・研修例、実践例はHPを活用とあるが、保育所での活動が小学校の生活科等に生かされている例等があると、保育所側も励みになる。

(委員 意見・質問)

- ・小学校としてもイメージが持ちやすいもの、幼小連携のステップを2から3までに上げていくための、接続を見通した課程や計画の編成実施というのは何かを具体例を絡めながらするとわかりやすい。例を挙げてもらうだけでも、園校で交流、研修会をする際に、見えやすくなる、分かりやすくなると思う。

議題(3) 今後のスケジュール等について 資料5 事務局から説明

- ・事務局より今後のスケジュールについて説明

4 閉会

- ・お礼の挨拶(石橋 幼児教育推進室長)